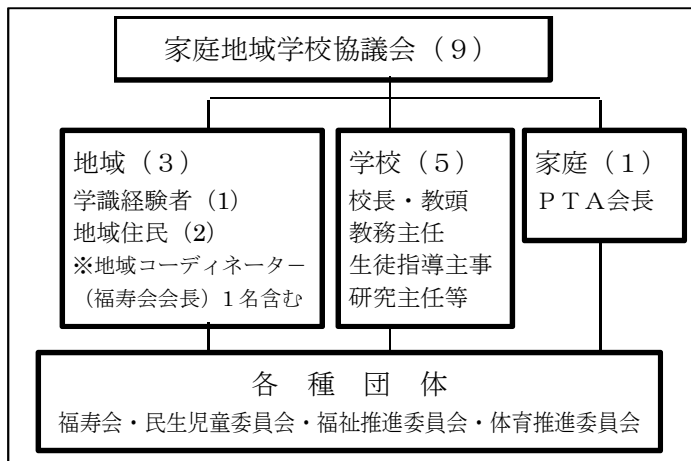


1「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- ①開催回数 年間4回
- ②開催日程
- | | |
|-----|-------|
| 第1回 | 5月15日 |
| 第2回 | 7月29日 |
| 第3回 | 1月16日 |
| 第4回 | 1月27日 |
- ③協議内容
- ・学校教育活動全般における地域との連携に関すること。
 - ・学校関係者評価を取り入れた学校運営に関すること。

(3) 協議会における成果と課題

<重点事項>

1	学校関係者評価制度を取り入れた、地域に信頼される学校運営
2	家庭への情報発信と学校開放日による開かれた学校づくり
3	地域素材の教材化と人材・施設の活用
4	各種団体と連携した特色ある学校行事や安全・安心な教育活動の展開

<成果と課題>

- ・学校行事などで子ども達の様子をよく見ていただくことができた。そのことにより、協議会では、数値的な結果としては表れていない部分についても評価していただくことができた。努力を認めていただけたことが、職員のモチベーションを高めている。
- ・評価書の説明を受けた際「取組内容等を精選し、心にも時間にもゆとりを持ち、子どもに接するよう心がけることが大切」との助言があった。今年度は、業務改善の一環として、勤務時間内に協議会を行う日を設定した。来年度は、協議会の回数を減らせないか検討したい。また、取組内容も精選する必要があると感じる。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- ・地域の方といっしょに米作りや野菜作りなどの体験活動を行い、地域の良さを再認識するとともに地域を愛する心を育てる。
- ・米作り体験活動を通して地域の課題を発見し、解決に向けての提案をすることができる。

(2) 活動の実際

①「稲作りについて考えよう」(3・4年生)

常磐小学校では長年、もち米づくり体験学習を行っており、田植えや稲刈りなどの活動を地域のお年寄りの方々に手伝っていただいている。今年度は、3・4年生が自分たちでも米作りに挑戦しようと、田植えで残った稲を利用して「バケツ稲栽培」に取り組んだ。しかし、うまく育てる

(様式3)

ことができなかつたので、「学校田の稲はどのような世話が行われているのか知りたい」という意見が子ども達の中から出てきた。そこで、地域コーディネーターでもある福寿会会長さんをはじめ地域およびJAの方を招いて、お話を聞かせていただいた。そのことにより、子ども達はバケツ稲の育て方との違いをはじめ、水の管理や肥料やり、除草剤散布など大変な世話がたくさんあることに驚いていた。そして、福寿会の方へ感謝の気持ちを新たにしました。



米作りの学習

②「かきもち販売」(5年生)

本校では地域の方から田圃を借用し、農業体験学習を行っている。「田植え」「稲刈り」「はさがけ」「脱穀」と、もち米の収穫まで全て手作業で行っている。

1月には収穫したもち米を使って、地域の人たちと一緒に「もちつき大会」を開催している。ついたもちをみんなで食べることにより、学校と地域との一体感が生まれている。

また、ついたもちをかきもちにし、5年生が「なわとび大会」に応援に来てくださった地域の方や保護者に販売している。かきもちにするために、まず、全校児童でかきもちつるしを作る。かきもちつるしは、福寿会の方が薄く切ってくださったもちを編んだ藁に挟み込んで作る。藁の編み方や挟み方などは福寿会の方にご指導をいただいている。揚げたかきもちは、5年生がなわとび大会前日までに、どのくらいの量をいくら位で販売するか考え、自分たちで袋詰めしている。今年度は、もちつき大会で余ったもち米も販売することにした。当日は、用意した分を完売することができた。



かきもち販売

(3) 地域コーディネーターの活動概要

福寿会会長さんには、行事ごとに会員さんに参加を呼び掛けていただき、協力者を集めていただいた。また、ゲストティチャーを探していただき、連絡調整を図っていただいた。区長会長さんには、体育大会など地区の行事の調整や、地区からPTAへの補助金のことに関してご尽力いただいた。

(4) 特に工夫した事項

「ときわの杜発表会(学習発表会)」や「もちつき大会」「体育大会」など、できるだけ多くの地域の方に参加していただけるよう子ども達がチラシを作成し、区長さんに配付していただいた。そして、それぞれに児童が感謝の心を伝える場を設定した。

また、福寿会の方が単に手伝ってくださるだけに終わることのないよう、できるだけお年寄りの方を割振り、子ども達とふれあいながら、手取り足取り教えていただけるように配慮した。

(5) 成果と課題

- ・ 田んぼの管理をして下さっている方から直に話を聞くことで、米作りの大変さについて知ることができ、地域の方への感謝の気持ちがより深まった。
- ・ 地域の方と共に農作業をし、もちつき大会などの行事をともに楽しむことで、地域の人と触れ合い、郷土愛を育むことができた。